



学びの力

東筑摩塩尻校長会長 小林 順一



第134号
発行者
東筑摩塩尻教育会
編集者
会誌会報委員会

ながら取り組んだ。校長会や各種委員会の会合は例年とは同じにはできないものの、リモートなどの工夫をして行われた。保護者との連携を図り、感染予防と学校の再開や行事の実施についてご意見を聞きながら進めていった内容もある。地域の皆さんによる学校の消毒作業等の支援もしていただいた。

誰もが経験したことのない困難な事態であった。「危機的状況を変革の好機とする（「ピンチをチャンスに」と言われるが、今回はチャンスにすることが難しく思われた）。しかし、学校にはピンチに負けず、困難を開けるために学ぶ先生方がいてくださった。多くの人の知恵を集め工夫し、新たな発想や手立てが生まれてきた。なんとかしたいという熱意のもと、できることを学び、研究しようとするとする先生方の姿があつた。

八月二十五日に行われた教育懇談会「先輩の話を聞く会」では、「川井訓導事件と島内事件、信州教育の真髓を示す」と題して青柳直良先生のお話を拝聴した。

令和二年二月二十七日、安倍首相から突然の休業要請。学年末の残り少ない日々を惜しむように過ごしていた小中学校が臨時休業になつた。本校でも卒業証書授与式は代表生徒への授与、在校生参加なしという異例の対応をした。

四月、入学式、始業式、そして休業。コロナウィルスとの闘いの日々が再び始まつた。子どものいない学校。休業が長引くにつれ、先生方や子どもたちはさみしさと不安が日に日に増してゆく。この

らすも信州教育の真髓に触れられて定めしご満足の事でありましょう」と挨拶したといわれる。青柳先生は、島内小の教師たちと手塚校長の教育への構えを信州教育の神髄として私たちに語りかけてくださつた。

島内事件とコロナ対応のどちらも学校や個々の教師が、困難な状況に、「学びの力」で立ち向かった点で共通している。

五月、塩尻中は登校日を設けることができた。紺色の運動着を着た生徒がぱつりぱつりと登校してきた。生徒は、正門をくぐると早足になつた。走り出す生徒もいた。「先生」と生徒の声が聞こえる。

先生方も「元気!、久しぶり」と笑顔で迎える。子どもたちは、家の中で学校の生活や部活動や友だちのことを思いながら不安な気持ちに耐えていた。先生方は、できることは何か、どうすればできるようになるのか考え、研修し準備してきた。互いを思いながら待つて再開の姿だった。その根底には教師と子どもが互いの思いをつなぐ「学びの力」があるようと思われた。

牛山雅恵教育会長が塩筑教育会報百三十三号で「私たち教職員は今までの学校教育のあり方を見返し、新しい方向に転換するために結束し、議論してきた」と述べられている。「教育は人なり」と言われる。先輩たちがそうであったように、人格を高め資質を高めていく上で「学びの力」がその基となる。これから出会う予測不可能な事態にも「学びの力」によって乗り越えていける塩筑の仲間であります。

(塩尻中学校)

と考えた。そこで、魔法の杖を持ち、「ひゅー。元気でね。学校で待ってるよ。」とびきり明るい声で笑顔を送った。職員が画面を通じ子どもたちに元気を与えてくれたと職場で話した保護者もあり、話を聞いた同僚から「朝日小の先生方は、そんなこともしてくれるの!」と羨ましがられたという声が聞かれた。

【三年生】
三年生の担任二人は、子どもたちの心と体の健康について心配していた。二人は子どもたちが、規則正しく健康的な生活ができるように「運動をしよう」「ゲームやりすぎ注意」「早寝・早起き」「たっぷりお手伝い」等、生活上の注意を絵を使つて伝えた。保護者からは「担任の先生が画面に登場し、わかりやすく話をしてくれたことで、だらだらしていた子どもたちの生活が、一気に引き締まつた」と喜びの声が届いた。

【五年生】
六年生から児童会を引き継ぎ、新児童会の発足・六年生を送る会の企画運営等、はりきっていた五年生。計画していたことが何もできなくなり、がっかりしているであろう子どもたちに、担任たちは、笑いとエールを送った。二人は、漫才コンビ風に画面に登場し、明るく「元気にやつてる?」「宿題、順調に進めてる?」「身体も動かして!」「たまには息抜きも大事だよ。」など、子どもたちが生活リズムを崩さず、心も体もバランス良く生活できるように呼びかけた。子どもたちはからは、「おもしろかった!」と大好評だった。

【六年生】

卒業まであと十日あまりいうところで急な休業を迎えることとなってしまった六年生。最後に学校のためにやろうと決めていた奉仕活動も、最後にみんなで最

「学校だからできる」とを

吉田小学校

高に楽しもうと計画していたお楽しみ会も……全てがなくなってしまった子どもたち。「僕たち・私たちの卒業式はどうなるの?」と心配しているだろう子どもたち。担任は、卒業式が予定通り実施されることを信じて、卒業証書を手に「これが君たちがもらう卒業証書だよ。先生たちは、君たちがみんなで卒業する日のために、準備をして待ってるよ。」と語りかけた。子どもたちが心待ちにしていた卒業式は予定通り開かれ、全員そろつて、画面で見た憧れの卒業証書を校長から受け取ることができた。

だれもが初めて経験した、突然で長い休業。得体の知れない病気への不安と恐怖。毎日顔を合わせ、触れ合い、笑い合ふ、明日命が奪われるかも、なんてことを心配することもなく生活していた当たり前のこと。それが奪われたこのコロナ禍。子どもたちのいない学校にむなしさを感じた日々、子どもたちが元気に登校してくれることが本当に私たちにとっての幸せだと、強く気づかされた日々。そんな中で、私たちが少しでも子どもたちとつながりたいと考え、村の特性を生かし、実践したことの紹介である。今回の休校で再認識した、私たち教師にとつての子どもたちの存在の大しさを心に留め、これからも子どもたちとの絆づくりを大切に、一日一日を大事に歩んでいきたいと思っています。

(合作)

新年度。六年担任・児童会担当として子どもたちを迎える準備をしている最中、教育実習でお世話になつた恩師と連絡を取りました。そこで私は、もやもやした気持ちを次の言葉で決意として伝えました。「こんな状況だからこそ教育だけは前進したい。」と。しかし同時に不安でもありました。コロナ禍の中、何がどこまでできるのかと。

分散登校が始まり、児童会長と新児童会目標は副会長たちと話して決めたい。会の目標を話し合う中で、会長が「児童会目標は副会長たちと話して決めたい」と悩んでいました。子どもの想いを大切にしたいと考え、私は、本部三役によるZoomでのオンライン会議を行うことにしました。初めての試みで、どうなるものかと心配しましたが、子どもたちはそれぞれ考え方を伝え合い、今年度の児童会目標を「自分たちで創る満開に輝く吉田小」と決めました。直接会つて話せない状況では、画面上でもリアルタイムで顔を見ながら話ができる、オンラインでのやり取りの有効性を感じました。児童会長も「ずっと話ができず不安だったが、直接話せて良かつた。」と振り返っていました。

通常登校が始まると、児童会主催で一年生を迎える会を行いました。会を計画するにあたつて壁



Zoomによる児童会役員会

令和2年5月21日(金)

市民タイムス掲載写真



1年生に向かい校歌を響かせる
1年生を迎える会

となつたのは、三密の回避です。しかし私は、全校で集つて迎える会を行いたい、という想いがありました。そこで、一年生を迎える会では、全校で校歌を歌うことにしました。なぜか。一年生に四百名を超える全校児童が集まつて歌う雰囲気を肌で感じてほしかったからです。これは、幼稚園・保育園では感じられないものでした。また、その上級生の姿を見て、自分たちの未来の姿を思い描いてほしかったのです。そして一年生に全校から入学をお祝いしてもらつたと感じてほしかったのです。さらに、二年生以上の児童にも全校で集まつた時の雰囲気を思い出してほしいという考えもありました。学校だからできること。学校だから感じられるもの。休業中には感じられない、学校ならではの良さを感じてほしかったのです。

当日、三密回避の対策として、校歌合唱以外はテレビ放送にて各教室で行うことにしました。そして学校紹介の一幕として校歌合唱を行いました。二、五年生は各教室のベランダに出て、一年生教室に向かう形で。六年生は外に出て、一年生教室を外から見る形の隊形で合唱を行いました。結果、数ヶ月ぶりに全校が集

まる形になりました。

数ヶ月ぶりの全校校歌合唱。練習なしのぶつけ本番です。不安はありました。しかし、歌い出すとその不安は消えました。一年生の教室を立体的に取り囲み、一年生に向かって歌声が集まつてくる。劇場ながらの雰囲気がそこにはあります。全身が震えるような感覚がありました。教室内に留まるはずだった一年生がランダムで出て来てくれました。その空間が温かいぬくもりで満たされました。自然と顔がほころびました。涙する先生もいらっしゃいました。今までの光景を思い出すと胸が熱くなります。

（安達 薫）

する先生もいらっしゃいました。今でもその光景を思い出すると胸が熱くなります。子どもたちの心にあの時間と光景がいつまでも残ることを願っています。

YouTubeを使った 英語学習

「子どもたちとのつながりと先生方の思い」

塩尻市教育委員会

「まだ、授業が始まっていますが、臨時休業中の英語の課題はどうしたらよいでしようか。」

休業中の学校訪問の中でこのような声が多く寄せられました。小学校では授業が始まっていない以上、ほかの教科のように「書く」「読む」課題を容易に与えることはできませんでした。また中学校

一年生も、「音」の貯金の少ない中での「読む」「書く」課題の内容に頭を悩ませていました。臨時休業措置が延長されたたび、不安と焦りが募っていました。

このような声が「英語学習補完動画」作成のきっかけとなりました。

二 「やつてみたい」が形になるまで

この当時、外で子どもたちを見かけることはほとんどありませんでした。お互いを守るために、ステイホームに徹していました。そのため、「家にいてできること」と。「家だからできること」そして「学校生活への希望や期待が持ること。」を基本に以下の経緯で制作しました。

①市内のALTに協力要請し、授業構想に沿つて一日二～三本撮影。

②編集作業一本目は、備品のビデオで撮影した。しかし、データがパソコン上で映像化されなかつた。二本目以降は、iPadで撮影した。今度は編集ソフトが動画を読み込まず、これらの映像はすべて市のICT教育担当にファイル変換してもらつた後に編集。（いずれも使い慣れたソフトや機器が古すぎたことが原因）

（安達 薫）

コロナだから仕方はない。そういつてあきらめるのが嫌でした。これまでとは違う方法で。生の人と人の間でしか感じられないものを。学校だからこそできることを。本校では、校長先生、教頭先生がそれをいつも後押ししてくださいます。諸先生方が支えてくださいます。吉田小学校のそいつた雰囲気の中で働けることをありがとうございます。「今だからこそ」学校だからできることを考え、前進する時だと感じます。（安達 薫）

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

三 これからここから配信後、オンライン学習について以下の二つの課題が見えてきました。

(1)動画は、音と映像があつてわかりやすく、一方的な学習になりやすい。

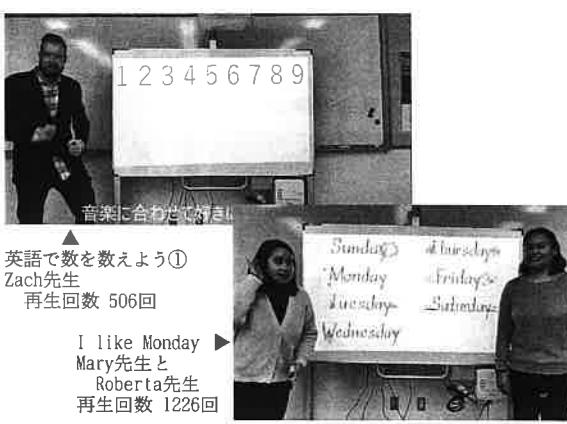
(2)子どもが自由に使える端末がないため、多くの家庭では、親が一緒について学習する必要がある。（配信後二週間で視聴数が伸びるのは夜八時以降でした。）

課題(1)は、動画の構成を工夫したり、明確な課題や目的を与えた、など双方向的な学習にしていくことで改善していくと思います。動画配信の利点の一つは「繰り返し」「場所を選ばず」「好きなところ」を見られるところにあるので、使い方次第で学習を深めるツールとなつていくと思います。

しかし課題(2)は、丁寧に向き合つてい有必要があるでしょう。「子どもが自由に使っていく」ようになるには、ネット環境の整備や端末の準備だけは不十分です。使いながら、関わりながらその良さと危険性を自ら理解し、使いこなしていく力が子どもたちにも、私たちにも今後一層求められています。

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつながる技術のことですが、通信環境の不具合やアップデートの速さから、これらのツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使えない(T)」と感じる先生方も少なくなり思います。それがコロナ禍においては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかくやってみようという思いを支えるものに変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。



*再生回数は9/30/2020現在

今回の会報は、コロナウイルス感染予防のために、例年通りとはいえない学校生活の様子を記録として残せたらと願つて編集をさせていただきました。お忙しい中ご寄稿くださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつながる技術のことですが、通信環境の不具合やアップデートの速さから、これらのツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使えない(T)」と感じる先生方も少な

くないと思います。それがコロナ禍においては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかくやってみようという思いを支えるものに変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少

なくないと思います。それがコロナ禍にお

いては、今(I)できることを、ちょっと(C)でもいいから、と(T)にかく

やってみようという思いを支えるものに

変化してきています。コロ

学校の先生方、市の職員、そして保護者の皆様の関わりが不可欠でした。

（早川 有美）

Information and Communication Technology (ICT) は通信技術を使って、人とインターネット、人と人がつな

がる技術のことですが、通信環境の不具

合やアップデートの速さから、これらの

ツールは、「いつも、(I)ちゃんと(C)使

えない(T)」と感じる先生方も少